

光センシング技術部会 講演要旨

開催日：2015年6月24日（水） <2015-1 ②>

テーマ：「道路の維持管理における非破壊検査技術の役割」

講演者：石田雅博氏（国立研究開発法人 土木研究所 構造物メンテナンス研究センター 上席研究員）

我が国では社会資本の老朽化が問題となっており、トンネルや橋梁などの道路構造物については5年に一度の近接目視を基本とする定期点検が平成26年7月から義務化された。これまでの国内外の落橋事例や重大損傷の事例を見ると、劣化がひどくなる前の予防保全や、構造物表面からはわからない内部の損傷の調査に対して、非破壊検査技術等の開発が期待される。土木研究所でも橋梁を対象として、高出力X線や中性子を用いた非破壊検査技術、各種センサーによるモニタリング技術の開発を行っている。非破壊検査技術の開発にあたっては、調査によって得られる効果と要する費用のバランスも重要であり、道路管理者等のニーズと技術を有するシーズとが一緒になって開発していくことが有効である。